河原町埋蔵文化財調査報告書　第12集

鳥取県河原町

片山遺跡発掘調査報告書

1999. 3

河原町教育委員会

鳥取市教育委員会

鳥取県河原町　片山遺跡発掘調査報告書　河原町教育委員会

序　　文

この報告書は、国道53号河原バイパス建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査の記録であります。

当遺跡が所在する片山地区は、平成元年度に実施した分布調査により遺跡の存在が確認されていました。

このような観点から調査を実施したところ、予想通り遺構が検出され周辺の歴史が少しは解明されたのではないかと思われます。

今後は、町の文化発展のため貴重な一資料として保管していく所存でありますとともに、この調査にあたり関係者の方々に絶大なるご協力とご指導、ご助言を賜りましたことに対し深甚なる感謝を申し上げる次第であります。

1999年3月

河原町教育委員会
教育長　中　村　勝　實

例　　言

1．本報告書は、河原町教育委員会が一般国道53号改築工事（河原道路）の実施に伴い、建設省中国地方建設局長から委託を受けて、平成10年２月３日から平成11年３月３日の間に実施した鳥取県八頭郡河原町大字片山に所在する埋蔵文化財発掘調査の記録である。

2．調査関係者は次のとおりである。

調査団長	中　村　勝　實（河原町教育委員会教育長）
調 査 員	中　島　弘　隆（河原町教育委員会主任）
事 務 局	小　泉　悦　則（河原町教育委員会教育課長）
	中　道　秀　俊（河原町教育委員会社会教育係長）
調査協力	建設省
	片山部落
	鳥取県教育委員会文化課
	鳥取県埋蔵文化財センター

3．発掘調査にあたっては、鳥取県教育委員会文化課、鳥取県埋蔵文化財センターの指導と協力を得た。

4．挿図中の方位は磁北を示す。

5．挿図中の記号は ＳＫ：土壙、Ｐ：柱穴を表す。

6．報告書は中島が執筆し、河原町教育委員会が編集、作成した。

7．発掘調査で得られた日誌・図面・写真・遺物等は、河原町教育委員会に保管する。

本　文　目　次

Ⅰ　位置と環境……1
Ⅱ　調査に至る経過……2
Ⅲ　調査の概要……2
Ⅳ　調査の結果……7
　1　ピット……7
　2　土　壙……7
　3　遺　物……7
Ⅴ　まとめ……11

挿　図　目　次

挿図1　片山遺跡周辺遺跡位置図…… 1
挿図2　片山遺跡周辺地形図…… 3
挿図3　片山遺跡遺構図…… 5
挿図4　ＳＫ１遺構図…… 7
挿図5　出土遺物実測図 …… 10

図　版　目　次

図版Ⅰ　片山遺跡遠景（調査前）
片山遺跡近景（調査前）
図版Ⅱ　遺跡全景（南東から）
遺跡全景（北東から）
図版Ⅲ　ＳＫ１（北から）
ピット（南から）

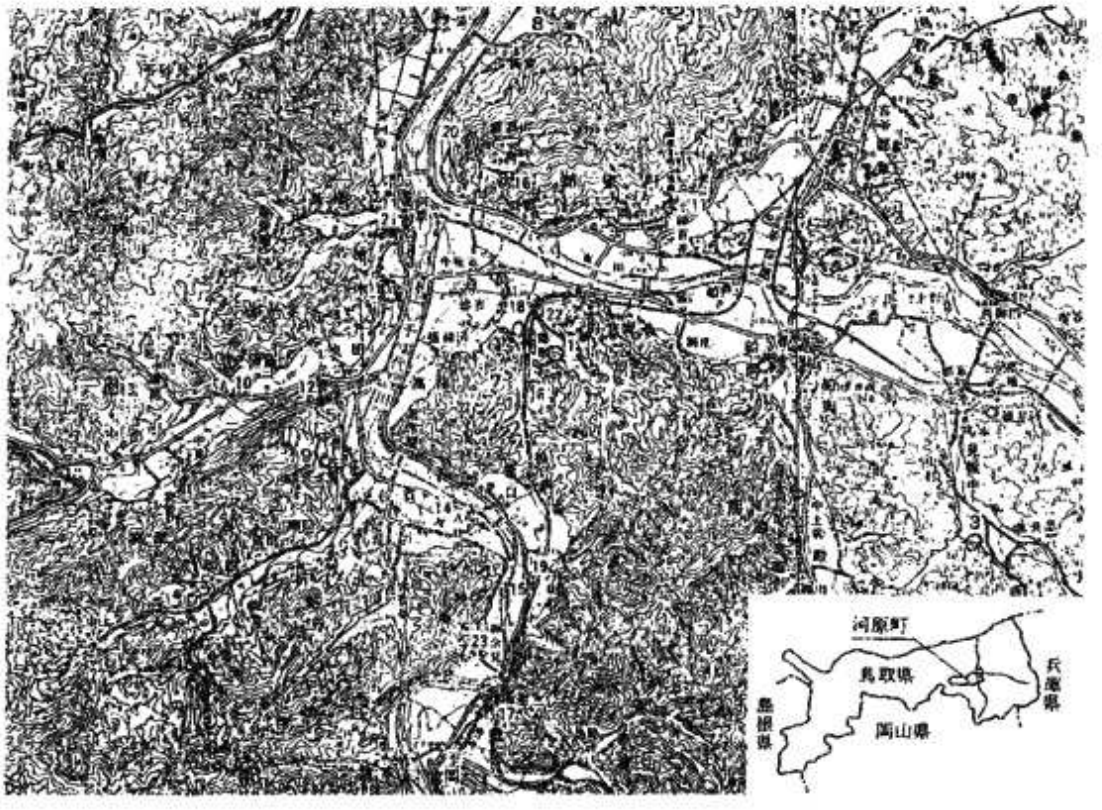
表　目　次

表　1　出土遺物観察表 …… 8～9

Ⅰ　位置と環境

片山遺跡は、鳥取県八頭郡河原町大字片山に所在し、因幡国のほぼ中央に存在する霊石山の南西麓、北流する千代川の東岸に位置している。

当遺跡が所在する片山集落は、天照大神が西征の際に一時滞在したと言う伝承をもつ霊石山を中心に周辺が歴史的産物の宝庫であり、特に北側支脈上には町内最大の稲常古墳群があり、集落内には県指定文化財の梵鐘を所蔵する国英神社や、霊石山の中腹には猿田彦の霊を祀る「神之御子石」、行基作と伝える薬師如来を本尊とする最勝寺があり、さらにその境内には源頼朝の弟範頼の墓と伝える五輪塔があるなど文化的遺産に囲まれた場所である。



挿図１　片山遺跡周辺遺跡位置図

凡　例

× 遺物出土地
散布地・集落跡
▲ 銅鐸出土地
古墳群
前方後円墳
● 円　墳
⊗ 窯　跡

1. 郷原遺跡
2. 万代寺遺跡
3. 牧野遺跡
4. 丸山遺跡
5. 獄古墳
6. 郷原古墳群
7. 山手古墳群
8. 稲常古墳群
9. 大平古墳
10. 天神原古窯跡群
11. 土師丙井廃寺跡
12. 式内社売沼神社
13. 羽黒山妙玄寺跡
14. 瓦経出土地
15. 銅鉦出土地
16. 最勝寺
17. 大安興寺
18. 前田遺跡
19. 下中溝遺跡
20. 片山遺跡
21. 丸山城跡
22. 山手森谷上分遺跡
23. 和奈見遺跡

Ⅱ　調査に至る経過

近年増大した交通量の緩和を図ることを目的として、国道53号の改築計画（河原バイパス　L＝5,425m）が平成元年度に策定された。事業計画は、平成元年度から用地測量、用地買収、設計協議、工事着手等を行い平成７年度供用開始を目指す内容であった。

しかし、土地所有者のバイパス事業反対等もあり、事業の進捗が大幅に遅れ、当初予定の平成７年度から平成13年度の供用開始に変更を余儀なくされた。

このようなことから、調査予定場所の土地所有者から調査の同意が中々得られず難航したが、ようやく合意に達し、平成２年１月16日から３月２日まで分布調査（トレンチ５本　E＝1,700㎡）を実施し、ピットと思われる落ち込みを確認した。

次に、この調査を基に、バイパス予定地内の全面発掘を平成10年２月３日から平成10年３月15日まで実施したが、大小礫混じりの土質で見極めが非常に難しく、多数の土器は出土したものの、遺構の検出には至らなかった。

このため、鳥取県教育委員会文化課、鳥取県埋蔵文化財センターと協議し、調査の方法を検討した。

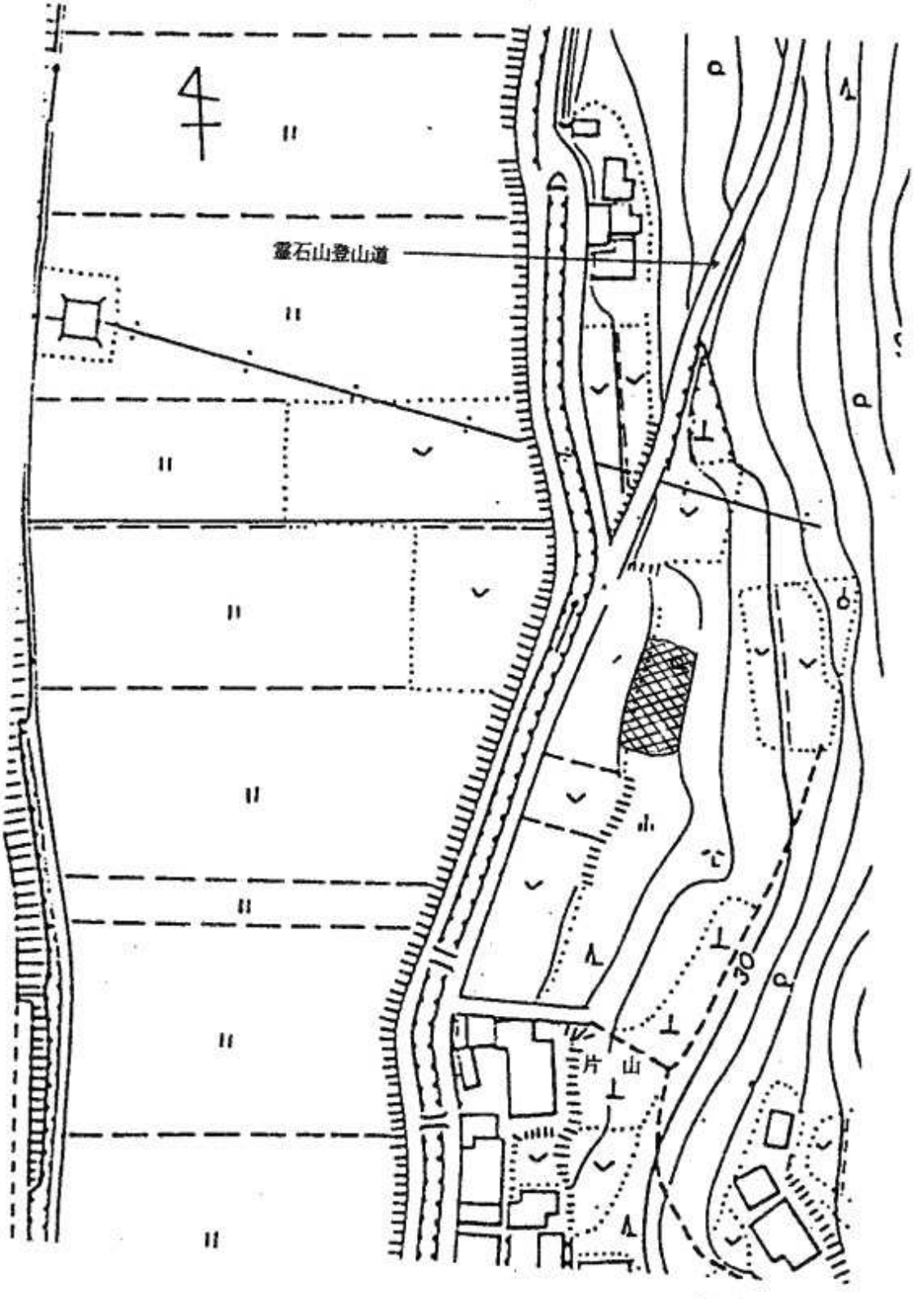
以上の事項を踏まえて、平成10年12月10日から平成11年３月３日までの間に再度調査を行ったものである。

Ⅲ　調 査 の 概 要

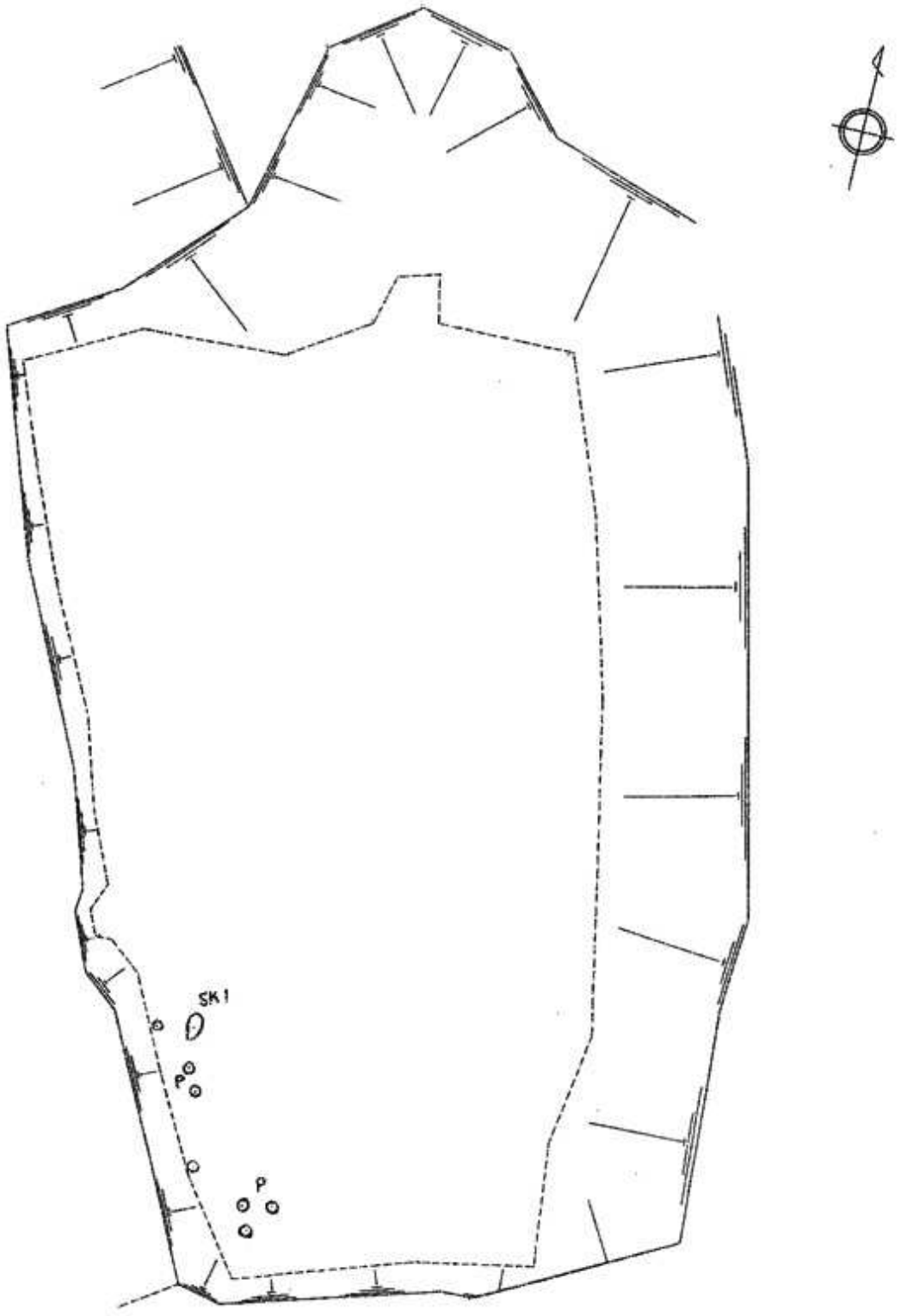
平成元年度に実施した分布調査で決定した調査面積は約800㎡で、霊石山登山道の起点東側地域で、その大部分は盛土予定地である。

調査は、平成10年２月から３月にかけて実施した全面発掘調査で、既に表土除去等を実施していたが、遺構面を検出するには、さらに掘り下げが必要であったため、平成10年12月10日から検出面を約0.3m～0.5m除去することとなった。当初、暗褐色土を検出した面が地山であるととらえていたが、掘り下げを行うことによって暗褐灰色粘質土の地山面を検出することができた。しかし、調査中途で相当数の大石が出土するなど地山と遺構面の見極めに困難を極めた。そのため、テスト用のトレンチを調査区を横断する形に設定し、堆積状況の把握に努めた。

調査の結果、遺跡南側を中心にピット、土壙を検出し、数多くの土師器、須恵器も出土したが、殆どが破片であり完形品はなかった。



挿図2　片山遺跡周辺地形図



S＝1：200

挿図３　片山遺跡遺構図

Ⅳ 調査の結果

1．ピット［図版Ⅲ］

全体で７個検出した。柱穴と思われるが、調査区の南側に集中して検出され、北、西、東側部分では全く検出されなかった。

柱穴は円形を呈し、径0.28m～0.35m、深さ0.15m～0.42mを図り、小型のピットが殆どであった。

さらにピットの位置、配列を見る限り残念ながら建物跡を形成するようには至らなかった。遺物も土師質の砕片が少々出土しただけであった。

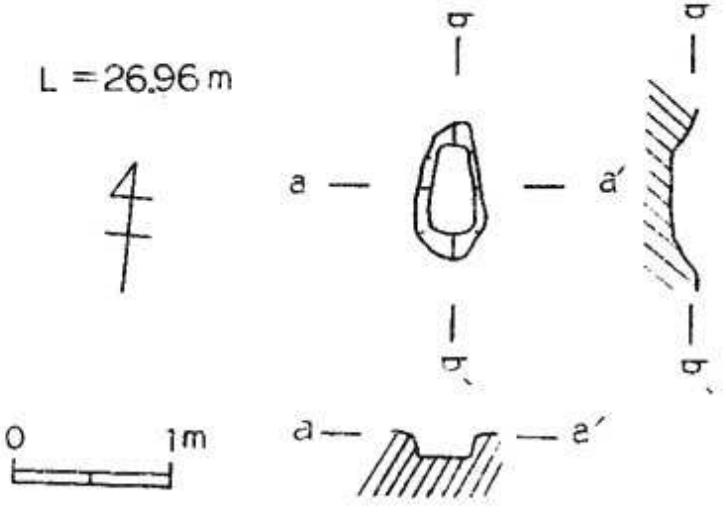
2．土壙（ＳＫ）

全体で１基検出した。

ＳＫ１［挿図４、図版Ⅲ］

調査区南西部に位置している。平面形は、楕円形を呈し、長軸0.92m短軸0.40m、深さ0.22mを図り、主軸をＮ－３°－Ｗにとる小規模の土壙である。底面は、隅丸方形で長軸0.65m、短軸0.28mを図る。

古墳時代～奈良・平安時代の土師器片が数点出土したが、いずれも細片で実測不可能であった。



挿図４　ＳＫ１ 遺構図

3．遺物［挿図５、表１］

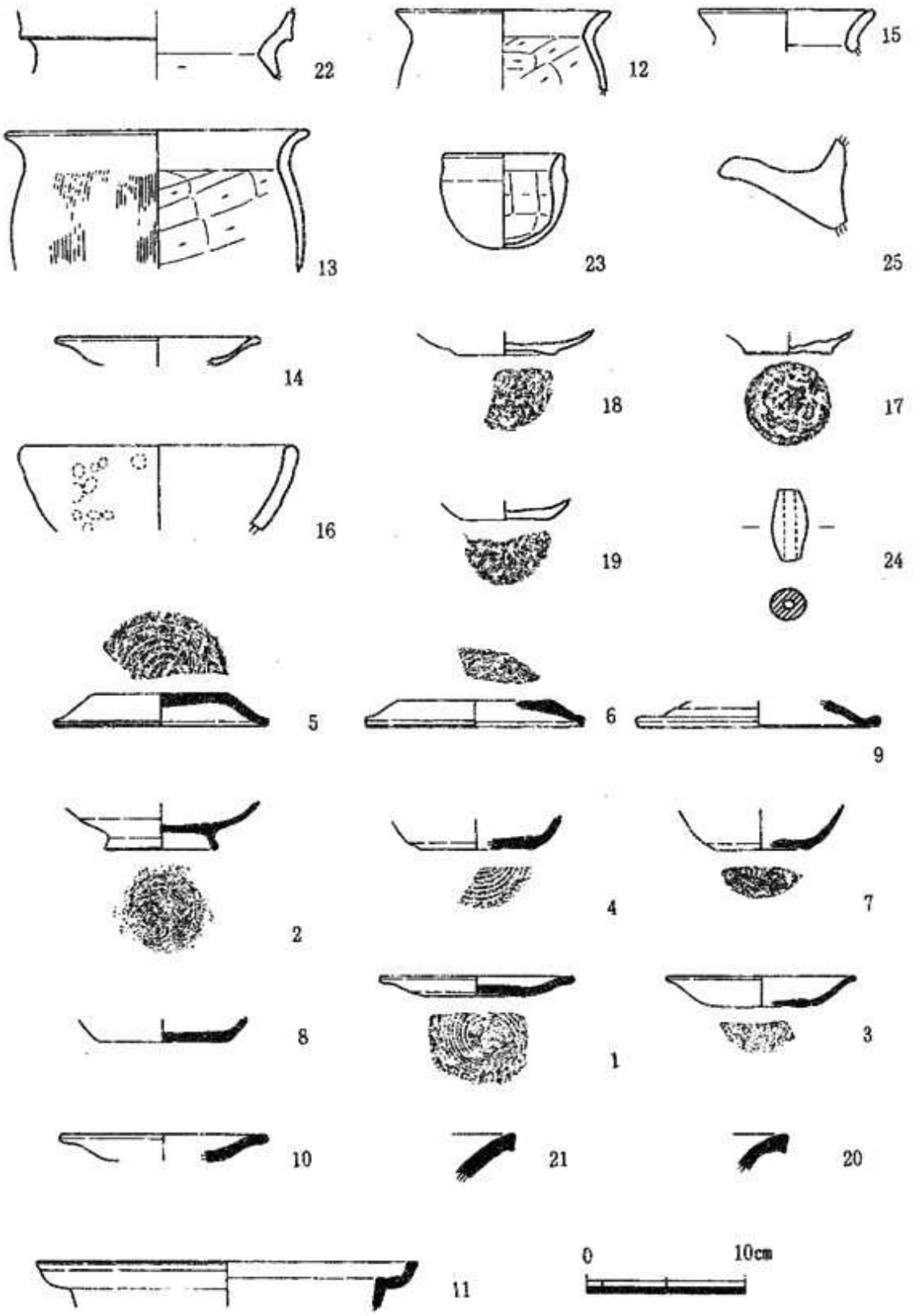
今回の調査で出土した遺物は、土師器、須恵器を中心に多数出土したが、完形品はなく、殆どが破片であり、特に小細片が多く出土した。

しかし、器種については多種であり、皿、坏身、蓋、鍋、甕、鉢、土錘等多彩であった。

表1　出土遺物観察表

出土位置	遺物番号	器種	法量(cm)	成形・調整	備考
表面採取	1	皿	復口径 12.0	やや上げ底ぎみの平底。底部から口縁部にかけて外傾し、端部は外反して丸くおさめる。内面ヨコナデ、外面ナデ調整し、底部外面は回転糸切りで仕上げる。	胎土　砂粒を含む 焼成　やや不良 色調　灰色
T－4	2	高台付坏身	高台径 6.7	貼付高台をもつ。底部から体部にかけてやや内湾気味に外傾する。体部内面ヨコナデ調整し、底部外面は回転糸切りで仕上げる。	胎土　石英を含む 焼成　やや良好 色調　淡灰色
T－4	3	坏身	復口径 11.6	底部から口縁部にかけて外傾し、端部は外反して丸くおさめる。内外面ヨコナデ調整し、底部外面は回転糸切りで仕上げる。	胎土　長石・石英を含む 焼成　良好 色調　灰色
T－5	4	坏身	復底径 7.1	底部から体部に向かって内湾気味に外傾する。内面ヨコナデし、外面ナデている。底部外面に回転糸切りがみえる。	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　灰色
T－4	5	蓋	復口径 13.1	平らな天井部から口縁部にかけて外傾し、口縁端部を方形につまみ出す。内面ヨコナデ、外面ナデ調整し、天井外面は回転糸切りで仕上げる。口縁端部外面に稜がみえる。	胎土　砂粒を含む 焼成　やや不良 色調　淡灰色
T－2	6	蓋	復口径 13.6	天井部は平坦で口縁部にかけて外傾する。口縁端部は直立する。内外面ヨコナデ調整し、天井外面は回転糸切りがみられる。外面、スス付着。	胎土　砂粒を含む 焼成　良好 色調　灰色
T－4	7	坏	復底径 5.8	底部から体部にかけて内湾気味に立ち上がる。内外面ヨコナデ調整し、底部外面は回転糸切りで仕上げる。	胎土　砂粒を含む 焼成　不良 色調　灰白色
T－2	8	坏身	復底径 7.8	底部から体部に向かって内湾気味に外傾する。体部内面にナデ調整がみられるが、外面、底部内外面ともに風化のため調整不明。	胎土　砂粒を含む 焼成　不良 色調　灰白色
T－4	9	蓋	復口径 14.9	体部から口縁部にかけてやや内湾気味に外傾しながら大きく外反し、口縁端部を方形につまみ出す。内外面ヨコナデ調整。	胎土　砂粒を含む 焼成　やや不良 色調　淡褐色
表面採取	10	皿	復口径 12.6	底部から口縁部にかけて外傾しながら立ち上がり、端部は外反し丸くおさめる。内面ヨコナデし、外面ナデている。	胎土　砂粒を含む 焼成　不良 色調　黄灰色
T－2	11	鍋	復口径 23.8	外傾しながら、頸部は直角に屈曲し、外反気味に口縁端部をつまみ出す。内外面ヨコナデ調整し、体部外面にスス付着痕がみられる。	胎土　砂粒を含む 焼成　不良 色調　褐灰色
T－3	12	甕	復口径 13.2	「く」の字状に立ち上がる口縁で端部は丸くおさめる。口縁部内面ナデ、頸部内面ヘラケズリ。外面は風化がすすんでいるがナデている。	胎土　砂粒を含む 焼成　やや不良 色調　明赤褐色
T－3	13	甕	復口径 18.6	頸部はゆるやかに「く」の字状に屈曲し、口縁端部は丸くおさめる。口縁部内外面ともヨコナデし、頸部以下内面はヘラケズリ、外面はハケメ調整。	胎土　砂粒を含む 焼成　やや良好 色調　淡褐色
T－4	14	皿	復口径 12.4	体部から口縁部にかけて外傾し、端部は外反して丸くおさめる。口縁部外面はナデているが、口縁部内面、体部内外面は風化のため調整不明。	胎土　石英を含む 焼成　やや不良 色調　明赤褐色
T－3	15	甕	復口径 10.9	「く」の字状に立ち上がる口縁で端部は丸くおさめる。口縁部内外面ヨコナデし、頸部はヘラケズリを施す。	胎土　砂粒を含む 焼成　やや良好 色調　明褐色

出土位置	遺物番号	器種	法量(cm)	成形・調整	備考
T－2	16	鉢	復口径 16.7	内湾気味の逆「ハ」の字状に立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。体部は内面ナデて、外面に指頭圧痕がみられる。	胎土 砂粒を含む 焼成 良好 色調 淡明赤褐色
T 2	17	皿底部	底径 5.3	底部から体部にかけて大きく外傾しながら立ち上がる。体部内外面ヨコナデし、底部内面ナデて、外面ヘラキリ痕がみえる。	胎土 砂粒を含む 焼成 やや良好 色調 明赤褐色
T－4	18	皿底部	復底径 6.1	上げ底ぎみの平底で、底部から体部にかけてやや内湾気味に外傾する。体部は内外面ナデて、底部は内面ナデて、外面を回転糸切りで仕上げる。	胎土 砂粒を含む 焼成 やや不良 色調 淡明赤褐色
T－2	19	皿底部	復底径 5.5	ベタぎみの平底で底部からやや内湾気味に立ち上がる。内面風化のため調整不明。外面は体部をナデて、底部を回転糸切りで仕上げる。	胎土 砂粒を含む 焼成 やや不良 色調 淡明赤褐色
T－4	20	口縁	——	大きく外反し、口縁端部を方形につまみ出す。内外面ヨコナデ調整。	胎土 砂粒を含む 焼成 良好 色調 灰色
T－2	21	口縁	——	外反し、口縁端部を方形につまみ出す。内面ヨコナデし、外面ナデている。	胎土 砂粒を含む 焼成 やや良好 色調 淡灰色
T－2	22	甕	——	「く」の字状に屈曲する頸部。内面は頸部をヨコナデし、体部をヘラケズリの後ナデ消している。外面は風化のため調整不明。	胎土 砂粒を含む 焼成 やや良好 色調 明赤褐色
T－3	23	小壺	復口径 7.4	底部から体部にかけて内湾気味に外傾し、口縁部にかけて内傾気味に外反する。口縁端部を丸くおさめる。内面口縁端部をナデて、体部をヘラケズリし、外面はナデている。	胎土 砂粒、長石、石英を含む 焼成 不良 色調 明褐色
T－4	24	土錘	長さ 4.65 孔径 0.7	中心部に楕円形の孔をあけた管状の小型のもの。	胎土 焼成 色調
T－3	25	かまど	——		胎土 石英を多く含む 焼成 やや良好 色調 淡褐色



挿図5　出土遺物実測図

V まとめ

今回の調査では、1つの特徴として、遺構の検出が少ないのに対し、細片ではあるが遺物の出土が多かった点である。

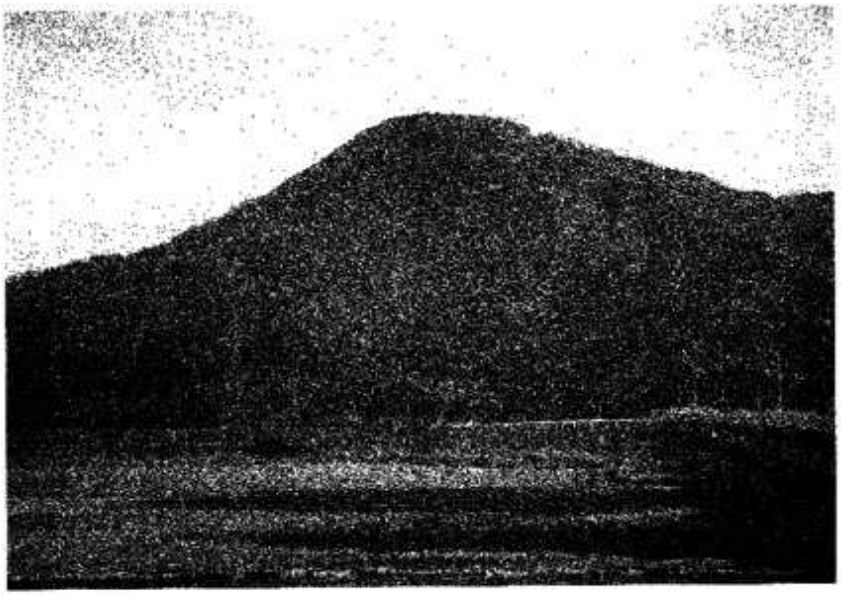
遺構を確認することはできたが、集落跡を決定づける建物跡、或いは竪穴住居跡等は検出に至らなかった。さらに遺物についてみると、時代の幅が広範囲であり、考えるとすれば複合的な遺跡であったとも推測される。ただし、全く反対の見方をすれば遺物は、周辺の遺跡（集落跡等）からこの場所（今回調査区）に運ばれた（捨てられた）可能性もあるのではないだろうか。近くを流れる千代川も以前は、この地を流れ覆っていたとすれば、大型の川原石の出土も納得できるし、地形から推測すると傾斜地であることから、霊石山の山石が堆積していることなどについても自然な姿であろう。

以上のことから、絶対的な時期を決定づけることは難しいが、手づくね土器や土錘等が出土していることなどから、祭祀的、又、漁業を中心とした生活の場が一時代を形成していたことには違いないであろう。

いずれにしても、現に周辺に散在する歴史的資料から窺えることは、霊石山を核とする因幡の国一帯の隠された歴史がまだまだ眠っているということであろう。

図　　版

（Ⅰ～Ⅲ）



片山遺跡遠景（調査前）

片山遺跡近景（調査前）

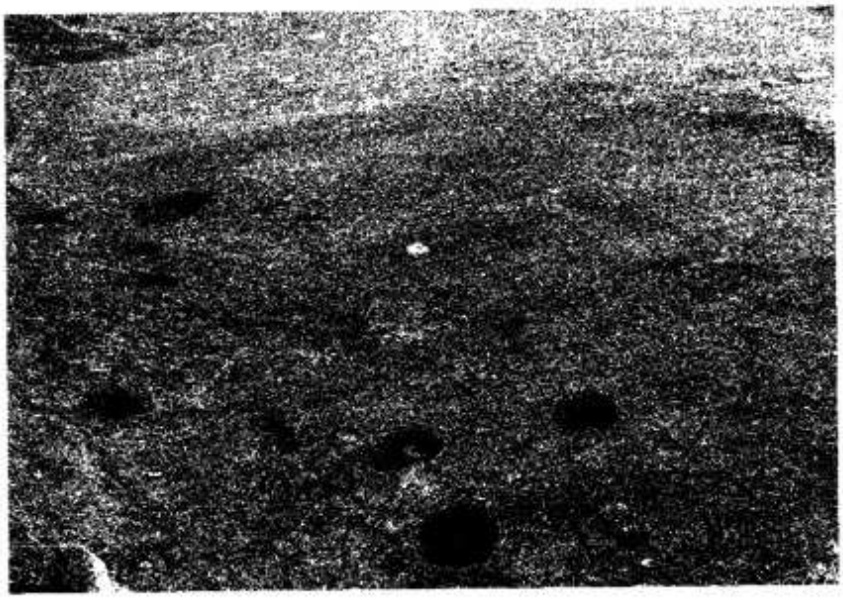
図版Ⅱ

遺跡全景（南東から）

遺跡全景（北東から）

図版Ⅲ

ＳＫ１（北から）



ピット（南から）

片山遺跡発掘調査報告書

発行日　1999年3月

発行者　河原町教育委員会
〒680－1221
鳥取県八頭郡河原町大字渡一木277－1
TEL（0858）76－3122

印　刷　㈲谷岡印刷
〒680－0037　鳥取市元町126
TEL（0857）26－2001